IFA 地球時代を行く

## ジュニア大使友情使節団

～パラオ班、団員の学び～

IFA では 3 月 28 日から 4 月 2 日に、9 回目となるジュニア大使友情使節団パラオ班を派遣した。同使節団は、訪問国への理解や外国語への関心を深めるとともに、様々な文化に接することで、真の国際人材育成をめざしており、ホームステイをしながら、学校での交流、日本国大使館訪問、ペリリュー島での平和学習等を行った。ここに、参加した団員の感想を紹介する。

**米原（よねはら）　穂佳（ほのか）　東京都・高校 1 年**

今回のパラオでの研修旅行では、ホームステイとペリリュー島での平和学習という、かけがえのない経験をすることができました。

ホームステイでは、現地の人ならではの自然や文化が学べる場所に連れていっていただきました。私は英語を話すことに苦手意識がありましたが、私のたどたどしい英語を笑顔で受け入れ温かく歓迎していただいたおかげで、気づけば自然に会話できるようになりました。パラオの人々の優しさにふれ、パラオが大好きになりました。

ペリリュー島では、第二次世界大戦の激戦地として残る史跡を訪れました。実際に戦車や防空壕を目の当たりにし、戦争で多くの命がなくなってしまったことを実感しました。

今回の研修を通して、人の温かさと平和の尊さを実感することができました。この経験を今後に活かしていきたいと思います。

**青木（あおき）　理人（りひと）　東京都・中学 2 年**

僕が今回ジュニア大使としてパラオに行ったことで、ずっと日本にいただけではほぼできないような色々な経験をすることができた。その中でも特に、ペリリュー島を訪問した時のことが最も思い出に残っている。ペリリュー島は、コロールから船で 1 時間ほど行った先にある島で、戦車や防空壕などの第二次世界大戦の戦跡も数多く残されていた。自分が日本にいるときには既に世界大戦というものがあったという知識はあっても、あまり現実のこととは捉えにくかった。しかし、ペリリュー島で戦跡を見学すると、それはやっぱり本当にあったのだと分かった。

ここには書ききれないけれども、このほかにも色々なところを訪問したり、体験をすることができ、本当に行ってみてよかったと思う。パラオでの出会いに感謝し、この学びやつながりを大切に未来を拓いていきたい。

**山﨑（やまざき）　愛理（あいり）　栃木県・中学 3 年**

パラオ派遣の中でいちばん心に残ったのは、ペリリュー島である。エメラルド色の海をイルカや亀が悠々と泳ぐ姿や満点の星空を見て自然の美しさを実感した一方で、島内には先の大戦時の悲惨な爪痕が 80 年経った今でも随所に見られ、心が痛んだ。苔や草が生えた状態の戦車は、まるで映画「天空の城ラピュタ」の失われた文明のようだった。豊かな自然と歴史の融合した情景に胸が詰まった。

交流活動では書道を担当した。学校で作品を見せると想像していた以上に盛り上がり、とても嬉しかった。実際に現地の子供たちの名前を書道で書いてあげると大好評で、書道の人気の高さを感じると共に日本の文化に興味を持ってくれたことに感謝した。

今回の派遣を通じ、歴史の重みとパラオの人たちの寛容さを感じた。国境を越えて絆を深めることが出来たのは何事にも代えがたい経験になった。今回の派遣を糧に、今後も様々なことにチャレンジしたい。

## 世界万華鏡

IFA 事業部長　西木（にしき）　春文（はるみ）　フィンランド・カラヨキ（その 1）

2026 年 3 月 25 日から 31 日までの 1 週間、「第 38 回春期ジュニア大使友情使節団」の団長として、初のフィンランドを訪問した。団員は全国公募で中学 1 年から高校 2 年の 10 名。皆、積極的で学びの多い研修旅行となった。

フィンランドは 1809 年までスウェーデン王国に属し、ロシア統治を経て、1917年に独立し共和国となった。無口で控えめな国民性とサウナで有名と事前学習をしたが、実際に物静かで穏やかな方々だった。日本からはヘルシンキまでは直行便で 10 時間程度ながら、今回はロシアと中東の上空を飛行できず、往復ともに約 13 時間となった。空港に降り立つと、海風が強く、体感温度は 2 度と出ており、非常に寒い。

◇

学校訪問やホームステイ交流を行う町・カラヨキへは、ヘルシンキからオウルへ航空機で約 1 時間半、そこからは専用車で約 2 時間かかる。オウル空港では、丁度、お昼時間となり、こぢんまりとした空港で唯一というカフェに向かい、団員に 1 人 20 ユーロを渡し研修の一環で各自がメニューから注文した。サンドイッチやクロワッサンなど、食べやすい品目が多い。無人売店で菓子を買う挑戦をする団員もいた。

カフェを出ると「IFA」の看板を掲げ、ドライバーの Tomi さんが待っていた。2 週間前には雪が数十センチ積もっていたのに、先週から非常に暖かくなりほとんど雪も残っていないと話してくれた。朝晩は 2 度前後になるが、室内が暖かいため、寒さをあまり感じない。

◇

Tomi さんにお願いして、日本文化紹介用に、途中、生花店に立ち寄ってもらう。担当団員は悩みながら、白とピンクマーブルのバラ 1 本、白カーネーション 1 株、葉物 1 本を選んだ。代金は 3 本で 3,800 円と非常に高いが、明日の披露まで保存できるよう丁寧にラッピングしてくれた。

カラヨキ高校に到着すると、Riku Saksholm（リク・サクショルム）校長先生が迎えてくださり、団員が代表挨拶。その後、講堂に移動し、リク校長によるオリエンテーションを受けた。団員からは自己紹介とフィンランドで知りたいこと・やりたいことを話すと、一人ひとりに丁寧に答えてくださった。

同校が併設されているメレノヤ総合学校は、2020 年に生徒 100 名規模の小さな学校が複数合併し、現在は 1000 人以上の生徒が在籍する、フィンランドでも大きな学校だ。教員は各地方で採用されるため転勤はほとんどない。リク校長も同校教員暦 25 年だ。

小学校では義務教育が多いが、中学、高校に進むと各自で選択する科目が増え、高校は授業の半分が義務教育、半分が選択授業となる。特にカラヨキ高校は芸術の分野で優れており、その分野の授業がたくさんあるとのこと。このため、高校生徒の半数は技術専門分野に進学すると聞く。フィンランドの「誰 1 人取りこぼさない」という社会理念の下、教育医療その他のサービスが維持されており、国は経済危機的な状況と聞くが、学校では、理念に則った豊かな設備（歯科、医療、心理カウンセル、技術室他）がある。（つづく）

令和 8 年 5 月 17 日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：ダイト印刷㈱